

鶴居村農泊推進協議会 (農泊)

釧路総合振興局

【協議会の特徴・理念】

- 既存の地域資源であるタンチョウヅルをはじめとする野鳥や湿原などの美しい自然や基幹産業である酪農等を活用し、地域経済や農村の活性化に資する農泊を展開
- 英語HP、SNS、Wi-Fi、キャッシュレス決済等、インバウンドを意識した受入を実施（宿泊の5割がFIT）

【地域の概要】

北海道鶴居村



① 自然環境

釧路湿原国立公園を始めとする美しい景観が広がり、特別天然記念物に指定されているタンチョウヅルが多く生息

② 人口

鶴居村 2,529人 (R2年)

③ 主な産業

酪農を主体とした農業や観光業が中心

④ イベント等

・鶴居村ふるさとまつり

・鶴居村のワインと

食を楽しむタベ

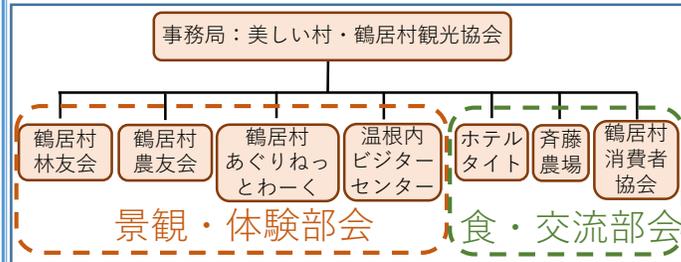


【協議会の概要】

① 設立年

2018年～

② 構成員・代表者（又は団体）



③ 協議会設立の経緯（きっかけ）

これまで、通過型・日帰り型の観光スタイルが主流であったため、村独自の観光資源・産業資源を生かした「農泊」の推進により、滞在化型の観光スタイルへの転換を推進するため。

④ 協議会の活動内容

- ・年3回の定期総会
- ・新規事業の開発

⑤ 現在の課題

構成員の人手が不足。協議会で情報を発信した後の事業者へのフォローアップが不足。

【主なコンテンツの種類及び実績（過去3カ年）】

① 宿泊者数（人）

年度	ホテル	農家民宿	延べ宿泊数
H29	1,800	800	2,600
H30	2,200	1,200	3,400
R1	2,500	1,800	4,300

② 体験者数（人）

年度	湿原散策	タンチョウガイド	サイクリング	チーズづくり	延べ体験者数
H29	300	120	80	80	580
H30	380	200	102	120	802
R1	520	240	125	180	1,065

③ 利用状況

【利用者の形態】

夏場は7割が日本人、タンチョウの観察シーズンである1～3月はインバウンドが大半を占める。国籍の内訳は、夏は中国、台湾、東アジア諸国が多く、冬は欧米等世界中から観光客が来る。リピーター率は高い。

【利用者の声】

- ・電動自転車の貸出により、村内滞在中のアクティビティが増えてよかった。
- ・ハートンツリーに宿泊したが、ロケーションや食事が素晴らしく、また、オーナーの心配りのお陰で快適に過ごすことができた。

【特徴的な取組】

＜宿泊と食事＞

ファームレストランハートンツリー

○宿泊とレストランがセットになった施設で、農村に暮らすようにゆっくりと滞在してもらうスタイルで、ゲストとの交流を重視

○料理やチーズには地域の提携農場の牛乳を使用し、地場産にこだわり

乳製品、チーズ製造の過程で生まれる副産物「ホエイ（乳清）」等を活用しキャラメル等に加工、販売



ハートンツリー外観



建物裏のフットパス



自家産野菜等をたくさん使用したランチ

＜アクティビティ＞

- ・自転車ツアーの開催、電動自転車のレンタル
- ・タンチョウ観察ツアー
- ・牧草地や林道を歩くフットパス



自転車ツアー

＜特徴的な取組＞

○H30年には「農村カメラガールズ」が首都圏から来村し、モニターツアーを実施。R元年度には鶴居村で撮影した写真の展覧会を東京で実施

○農泊協議会による森林ガイド育成イベントの開催（R2年）

○キャンピングカーによるワーケーションモニターツアーの実施（R2年）

○OTAを活用し、観光客からの問い合わせ窓口を外注したことで客の満足度は上がり、以前よりキャンセルは減少、予約数は倍以上に増えた（ハートンツリー）

○※WWOOFのホストとして年間40人ほどの外国人を受け入れ、農作業や料理教室の手伝い等を行ってもらっている（ハートンツリー）



森林ガイド育成イベント



農村カメラガールズモニターツアー

※WWOOFとは

有機農業等を実施する農家がホストとなり、食事と宿泊場所を提供し、そこで手伝いたい、学びたいと思っている人がボランティアとして手伝う仕組み

【連絡先】

代表窓口：鶴居村農泊推進協議会事務局 服部（TEL：0154-64-2020） mail: waku2tsurui@gmail.com